



こども相談室だより

No.4

平成27年10月発行

こんにちは。
“こども相談室だより”第4号を発行します。
今回は“子どもの社会性の育ち”と
“子育てを振り返って”です。



発行元
長野市こども未来部
こども相談室
TEL 026-224-7849

☆☆☆子どもの「社会性」の芽生えは身近な関わりから☆☆☆

子どもには、年齢や時期に応じた発達の段階があります。大人が、子どもの成長を理解することで、その時期に添った健やかな成長へつなぐことができます。

「社会性の芽生え」

生まれたばかりの赤ちゃんがなんとなく見える距離は、抱っこされて母乳やミルクをもらう時の大人の顔くらいの距離です。この頃は、親のぼんやりとしたシルエットを覚え、“心地よいことをしてくれる人が居る”ことを少しずつ感じ始めます。**4ヶ月頃になると**、大好きなお母さん、お父さんの顔もわかるようになり、あやすとにっこりするようになります。

個人差もありますが、**7・8ヶ月頃になると**、視力も向上し、脳も発達することで、記憶も出来るようになるため、親と他人の区別もつき、人見知りが始まります。また、大人のすることを何でもまねをしてやろうとします。“「バイバイ」や「パチパチ」はほめられる”でも、“ポットやコンセントに触ると叱られる”など、自分の行動と大人の反応、相手の表情などで判断ができるようになる**「社会性の行動」の芽生えがみられます。**

この芽生えの時期に大事なこと：「大人の話聞く」基本をつくりましょう。

例えば生活習慣では・・・子どものペースではなく、大人が生活のリズムを整えましょう。

☆大人が「起きる」・「寝る」時間を決める☆

1歳までは12時間位の睡眠時間が成長に良いと言われています。

＜どうするの？＞眠りに向けての習慣を脳に覚えさせましょう

・布団に入るまでの行動について、毎日同じ事を繰り返すことによってその行動を脳が覚えて、布団に入ると眠くなります。例えば「ゆっくりご飯」⇒「ゆったりお風呂」で安心して布団に入り、お話しや子守唄で眠りにつく事を繰り返します。

＜どうなるの？＞生活リズムが整うと気分や行動のコントロールが育ちやすくなります。(体も気持ちも落ち着きやすい)



「社会性は積み重ね」・・・社会性の育ちは、個人差もありますが、年齢によって段階があり行動にも現れます。

例えば：おもちゃで遊んでいる時の友だちとのトラブルの場面で。

1歳頃・・・友だちがおもちゃをとってしまう。おもちゃを取り返す。友だちに噛みつく。

2歳頃・・・「○○ちゃんの！」「だめ！」と言って貸さない。

3歳頃～・・・だんだん言葉で言えるようになると「一緒にいいよ。」「入れて」とやりとりができる。

4歳半頃～・・・「僕が遊んでいたから返して。」と理由をつけて話ができる。

5・6歳頃・・・「人が使ってるの、持ってっちゃだめだよ。」と社会のルールを教えられる。



1歳なら仕方ない事でも、年長児で「噛みつく行動」のままだと問題のある行動です。

気になる行動は社会性の発達が、年齢の発達より幼いために起ってしまう行動です。

1歳頃の「噛みつく行動」は、起こす前に止めて言葉で伝えたり、噛まなかった時にほめたりして、「噛まない事」が良い事を繰り返し伝えましょう。子どもはわざとじゃなくて手段を知らないだけなのです。

もし、お子さんの行動で気になる事があったら、どこでつまづいて、困っているのか考えてみましょう。

※こども相談室も一緒に考えていきたいと思えます。お気軽にご相談ください。

子育てを振り返って



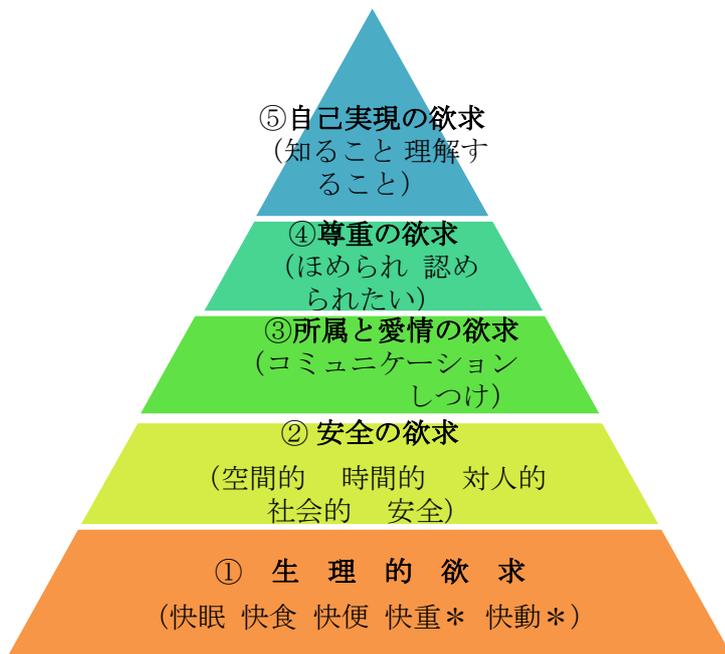
「こども相談室」で相談を受けさせていただきながら、自身の子育てを思い返すことがあります。核家族のため経験豊かな相談相手もなく、現在のように手軽にインターネット等で調べることも出来ない私は、「こうすればこうなる」のハウツー物を頼り、方向違いのことばかりをしていました。

当時は仕事に追われ、少しでも早く**標準的に育つ**ことを願い、ひたすら「早くー」と、その子なりの育ちを待たず、強いプレッシャーをかけ続けました。やがて我が子は不安定となり、ヒステリーを示して「嫌ー！ やらないー！」と泣き騒ぎました。もしも我が子がSOSを発信しなければ、私は限界まで我慢していた子の心の内に気付くこともなく「聞き分けの良い自慢の子」だと勘違いし、厳格に接し続けたと思います。

この時、家庭が子どもにとってホッと出来る安心安全の居場所（**安全基地**）となっていないことに気付かなかったならば、更に心身症や問題行動等も引き起こさせてしまったかもしれません。

「マズローの欲求階層説」

心理学者マズローは、「人間は自己実現に向かって絶えず成長する生き物である」と仮定し、人間の欲求を5段階の階層で示しています。家庭が安全基地でなかったとすれば、「マズローの欲求階層説」で言う「②安全の欲求」が満たされていなかったことになります。



- ①～④の欲求は人間が心身共に健康に成長するために欠かすことのできない段階です。
 - 「⑤自己実現の欲求」は知的欲求の段階で、①～④の**基本的欲求の充足**により生じます。
 - それぞれの段階の横幅を子にとっての**必要量**と見ると、横幅の広い「①生理的欲求」の段階は、**その子のその時の状況に応じ、十分に楽しみながらゆったりと満たしていくことが必要**になります。
- ← 快重*：順調な体重増加
← 快動*：身体を活発に動かす楽しい遊び

「①生理的欲求」が満たされないうちに大人が「②安全の欲求」を求めようとすると、**大きな不安から怒りや恐怖**などが生じ、「①生理的欲求」や「②安全の欲求」が満たされないうちに「③所属と愛情の欲求」を求めれば、**しがみつき状態**が生じます。子どもの成長を急かしても結果的に早く上の段階に到達するとは限りません。身体**の成長が豊かな心**を育て、それに伴って**活発なコミュニケーション活動**が展開してことばが育ち、「⑤自己実現の欲求」の段階へと進みます。先ずは丈夫な身体作り、次には安心できる大人との関わりを築く。そして、その子のペースに寄り添い、**ありのままの子の存在や価値を認め、** **一歩ずつ①～⑤への階段を上がって**いけたらいいですね。

子育て真っ最中の皆さん、頑張り過ぎずに「フー」と一息ついて**ゆったり**子育てしていきましょう。